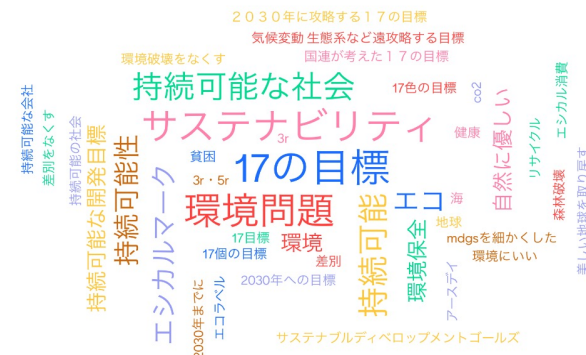


# SDGs達成まであと9年！今と未来を見つめる学びとは？

SDGsの達成目標まであと9年になり、ひとりひとりが世界の問題を自分ごととして捉え、行動することを目指す、開発教育の視点がより重要な段階といえます。児童・生徒の行動や、長期的な意識につなげるためには、SDGsをどのように授業で扱い、どんな働きかけが必要なのでしょうか。今回は学校でSDGsの授業を行っている、国本小学校の齋藤先生から、その授業の流れや児童の反応、授業作りに込められた想いをお聞きました。

## SDGsを通した開発教育の授業実践 執筆：国本小学校 副教頭 齋藤 悠真 先生



### 教科横断型のSDGs学習

まずは学園にある桜の木の剪定のお手伝い。都心で過ごす子どもたちにとっては、枝葉に触ったり折ったりする経験は刺激的なものでした。とげが刺さって痛かった、緑の匂いが新鮮だったと感想が出るほど、自然を五感でフルに感じた日になりました。剪定した枝葉は廃棄されることが分かったので、それらを何かに利用できるか？方法はないだろうか？と子ども達に問いかけて活動を終えました。

そして道徳の授業では、カナダの環境問題活動家であるセヴァンスズキさんの、環境サミットでのスピーチを実際に英語で聞きました。また国語や総合的な学習で、子どもたちはエシカルマークのついたものを自宅のキッチンで家族と探したり、そのマークを詳しく調べ、ICT機器を利用してプレゼン資料を作って発表したり、17の目標について調べるなど、教科を横断しながらいろいろな分野で学習に取り組んできました。

子どもたちは、これらの学習活動から生まれる様々な疑問や、答えのない難題に対して課題を設定し、情報の収集・整理・分析をすることで、自分の意見を持ち、クラスの友達と共有することの楽しさや喜びを感じたようでした。そして、最善の解を導くため、より一層意欲的に学習に取り組む姿が見られました。

東京都にある国本小学校。5年生の子どもたちに、卒業までの2年間で多くのことを学び、考えてもらいたいという願いのもと、今年の4月22日のEarth DayからSDGsに関する学習をスタートしました。



### 地域の企業と連携した取り組み



夏休みには、SDGsの取り組みを行っている企業を調べ、100社以上の取り組みをみんなで共有しました。多くの企業が利益を追求するだけではなく、社会的責任を果たすための取り組みをしていることを知りました。学校の近くにある「サミットストア」の取り組みも挙がっていたので、近隣店舗の店長を

ゲストスピーカーとして招き、講演をしていただきました。その翌日には、感染対策を講じた上で、開店前に実際に店舗の中を見学させていただきました。子どもたちは写真を撮ったり、開店準備中の従業員の方に質問をしたりして、サミットストアが行っているSDGsの取り組みを探し、実際に肌で感じることができました。今後、店内に子どもたちが作成した壁新聞を掲示することになっており、地域の方々へ伝え広めていく学習を計画しています。





## 体験から「循環」と、その心を学ぶ

9月中旬に「アトリエシムラ」の協力のもと、4月に剪定した枝葉を利用した草木染め体験を行いました。志村昌司先生の想いを聞き、職人の技を見て、生糸を触り、自然の色を感じ、皆で考えることで、子どもたちのモチベーションもパフォーマンスも上がっていきました。

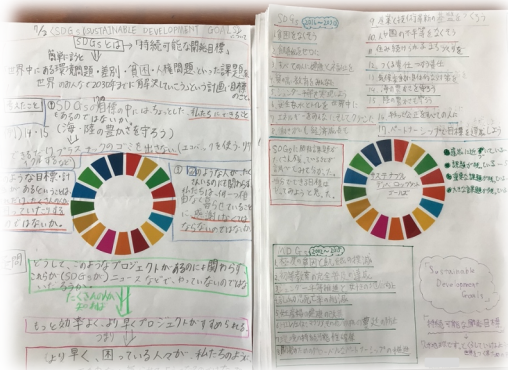


染めた布は、家庭科で袱紗のサイズに縫い、茶道の授業で使うこともできました。廃棄するはずの枝葉から「色」を頂き、新たなものを生み出す過程では、自然に対する畏敬の念を体感することができました。「真心の発揮」「自然に対する素直さの涵養」「恩を知り恩に報ゆる心の育成」という校訓や、SDGsにつなげることもできたと思います。



校内の学習展示発表会では、4月からの一連の学習のまとめを展示し、保護者や見学者から称賛いただきました。

終わりのないこの学習は、まだまだ続きます。子どもたちにとって実りのある2年間、そして将来につながる2年間にすべく、これからも挑戦していきたいと思っています。



SDGsや開発教育の授業を通して、SDGs後の社会を見据え、その中での自分のあり方を考える。その「きっかけ」を届けるために、子どもたちの豊かな感性に響くような、さまざまな活動が重要な時期なのかもしれません。やがてそれが、また次の世代に受け継がれるようなサイクルをつくっていききたいですね。JICAでは、開発教育・国際理解教育の実践事例や指導案、教材、出前講座など、多様な形でサポートできるようなリソースを揃えています。地域の国際協力推進員にもぜひご相談ください！

## 授業に込めた思い・願い

～これからの社会、SDGs後の社会でのあり方～

子どもたちは授業のたびに感想や意見、疑問などを書き留め、クリアブックにまとめています。将来、今の考えと、彼らが社会に出た時の考え方の違いを受け止め、万物にとって最善の行動をとるために、自分の意見をしっかりと持ち伝えていかなければいけないと考えます。子どもたちには、これからの社会を担っていく中で、環境や自然だけでなく、経済や文化、国家間の関わりなどを包括的に捉え、常に将来の世界や日本のために尽くせる大人になってほしいと願っています。



**齋藤先生は、2021年度 国際理解教育/開発教育 指導者研修に参加しています。**

JICA地球ひろば主催の国際理解教育/開発教育指導者研修は、学習指導案の作成と授業実践を通して、教員としての専門性を高めることをねらいとした、教員対象の研修です。

齋藤先生は『この研修で、同じ志を持った多くの教員と出会い、語り合うことで、今まで行ってきた教育活動に幅が出たと思います。またこの研修を通して、この教育を広い視野で広げていかなければいけないという覚悟が強くなり、同時に「これでいいのだ」と自信がついたように感じています。』と感想を語っていただきました。

この国際理解教育/開発教育指導者研修の一環として、2022年2月6日(日)に一般向けの公開セミナーを開催します。今後、JICA開発教育メルマガやJICA地球ひろばWebサイトにて詳細を発信予定です。ぜひご注目ください！



開発教育の授業実践事例・学習指導案は[こちら](#)